

農の架け橋

発行：茨城県鹿行農林事務所 経営・普及部門

(銚田地域農業改良普及センター)

TEL:0291(33)6193

FAX:0291(33)6725

Eメール: rokkonourin03@pref.ibaraki.lg.jp

銚田地域農業青年プロジェクト実績発表会を開催しました！

1月28日(水)、銚田合同庁舎で農業学園第5回講座を開催し、農業学園生や銚田市4Hクラブ員、助言者等あわせて15名の農業関係者が参加しました。

講座では、個人プロジェクト活動として、銚田市の岡野祐敬氏より「天敵生物の活用による有機トマトの生育・収量向上」、共同プロジェクト活動として銚田市4Hクラブの鬼澤拓実氏より「馬ふん堆肥によるカンショの収量・品質向上」の発表が行われました。



出席者からは、目標収量や価格、供試資材の選定理由などの質問があり、活発な意見交換が行われました。なお、岡野氏には、2月5日(木)に開催された茨城県農業青年プロジェクト発表会で、地域代表として発表していただきました。

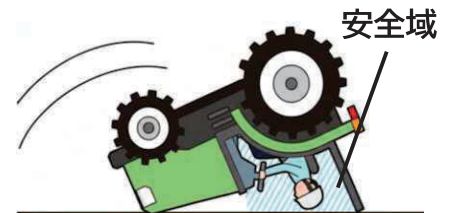
命を守るトラクターのシートベルト

農作業中の死亡事故で最も多いのは、農業機械によるものです。なかでも、乗用トラクターの転倒・転落事故が大きな割合を占めています。

トラクターには、転倒時に乗員を守るための安全キャブや安全フレームが装備されていますが、これらはシートベルトを着用して初めて十分な効果を発揮します(右図)。

安全キャブ・安全フレーム付きトラクターを使用し、必ずシートベルトの着用を徹底しましょう。

※トラクターも道路上でのシートベルト着用が義務化されます。
(令和9年1月1日以降に製造された座席を有するトラクターが対象)



シートベルトをしていれば転倒時に安全域にとどまれる確率が高い

参考：農林水産研修所つくば館資料

スクミリンゴガイ (通称：ジャンボタニシ) に注意しましょう！！

管内でもジャンボタニシが発生しています。対策のポイントは以下のとおりです。

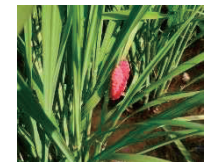
1. 水路からの侵入防止

取水口・排水口に9mm目合い程度のネットや金網を設置し、水路からの侵入を防止します。移植前の入水時から、食害されにくくなる移植後3週間(5葉期)までの期間に設置すると効果的です。

2. 水路等での殺卵

卵塊が濃いピンク色の場合は水中に落とすことで駆除できます。黒～白っぽい場合(孵化直前)は、卵塊をつぶして駆除します。

また、拡大防止のため、発生ほ場で農業用機械を使用した後は、機械(爪やアタッチメントも含む)の洗浄等をしっかり行いましょう。



ピンク色の卵塊

注) 椿油かすをスクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)等の害虫防除目的で使用することは農薬取締法違反です。

※ 椿油かすには魚介類に影響のある成分「サポニン」が含まれています。肥料として使用する場合も水を張った水田や、用排水路・池などに流出しやすい場所では使用を控えてください。

注) スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)の卵塊には神経毒が、成貝には人体に有害な寄生虫(広東住血線虫)がいる場合があるため、素手では扱わない(ゴム手袋等を着用する)ようにしましょう。

慣れた作業ほど安全確認！防ごう！農作業事故！

ピーマンのうどんこ病に注意しましょう！

1. ピーマンに発生するうどんこ病の特徴

- 原因となる菌が葉の内部で増殖するのが大きな特徴です(内部寄生性)(イメージ図参照)。
- 感染後2週間から1か月で、葉裏に白いカビ、葉表に黄色っぽく色が抜けた部分が現れます(写真①②)。
- 写真①のような症状が目に見えるようになる頃には、葉の内部ですでに菌が一定量以上に増殖しており、農薬による防除効果は得られにくくなっています。そのため、ピーマンのうどんこ病対策で、特に重要なのは**発病前の予防**です。



葉の内部で増殖し、
葉裏から菌糸で出るイメージ図



写真②うどんこ病(葉裏)



写真③うどんこ病(葉表)※
※茨城県病害虫防除部提供

2. 発生しやすい環境

湿度:乾燥した条件で発生しやすい

温度:15~28℃で発生し、25℃が最も発生しやすい

時期:4~7月、9~11月

※ハウスの南側や暖房機周辺が高温乾燥となるため、発生しやすい

ピーマンのうどんこ病に登録のある主な農薬 (2026.2.1現在)

薬剤名	使用量	使用方法	適用場所
硫黄粉剤50	3kg/10a	株間散布	—
硫黄粒剤	6~16g/2000立方メートル(高さ2m、床面積1000平方メートル)	専用の電気加熱式くん煙器でくん煙する	園芸用ガラス室、ビニールハウス、ビニールトンネル等密閉可能な場所



写真③
電気加熱式くん煙器

必ず、農薬使用前にはラベルの記載内容を確認して、誤った使用を行わないようにしてください。

サツマイモ基腐病の防除対策(育苗期から植付期)

令和7年11月、ひたちなか市で本県では3年ぶりに本病の発生が確認されました。当事案の感染経路は、生産者が、数年前に同病の発生が確認されている他県から、同病に感染した疑いのある苗を購入・作付けし、作付けほ場から水の流れや農作業を介して病原菌が移動したこと等によって、徐々に近隣のほ場へ感染が拡大したと推定されています。今後の侵入・感染拡大防止のため、引き続き、下記の点に注意しましょう。

1. 「持ち込まない」対策

- 苗の増殖は**ウイルスフリー苗**を使用しましょう。種いもは、栽培履歴が把握できており、病害等が発生していないほ場のいもを使用しましょう。
- 採苗する際は、**苗を地際5cm以上**で切り、その後、速やかに苗消毒を行いましょう。
- 採苗時に使用したハサミは、火炎滅菌または丁寧な洗浄と拭き取りを行いましょう。
- 使用したコンテナや長靴等はよく洗浄し、残さや土を完全に落としましょう。

2. 薬剤使用による対策 (2026.2.1現在)

	薬剤名	使用量・希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	分類コード	使用方法
土壌消毒	バスアミド微粒剤	30kg/10a	植付21日前まで	1回※1	8F	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
	ガスタード微粒剤	30kg/10a	植付21日前まで		8F	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する
種いも消毒	トップジンM水和剤	200~500倍	貯蔵前~伏せ込み前	1回	1	30分間採苗用種いも浸漬
苗消毒	ベンレート水和剤	500~1000倍	植付前	1回※1	1	30分間苗浸漬
	ベンレートT水和剤20	200倍	植付前		M03、1	30分間苗浸漬
	トリフミン水和剤	500倍	植付前		1回	3

農薬を使用する際は、ラベルを見て対象作物、使用量・希釈倍数、使用時期、使用回数等を確認して、誤った使用を行わないようにしてください。

※1 共通する有効成分が含まれているため、総使用回数に注意してください。

その使い方、大丈夫？ 農薬ラベルを再確認！！